

あいち農産物生産流通レポート

令和元年10月号

	ページ
◎ 情報サロン ・ 早生で良食味のなし新品种「愛知梨3号」を開発 (農業総合試験場)	1
◎ 地域トピックス ・ 「安城梨」のブランド化の取組について (西三河農林水産事務所)	2
◎ 東日本情報 ・ 「買う」から「利用する」への視点の変更 (東京事務所)	3
◎ 西日本情報 ・ セントレアでの県産農産物に係る外国人の嗜好性調査について (食育消費流通課)	5
◎ フラワーページ ・ 紫外線照射によるバラ「うどんこ病」抑制技術の検討 (愛知県花き温室園芸組合連合会)	6
◎ 青果 ・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場) 7 ・ 名古屋・東京市場における青果物の10月の見通し 8	
◎ 花き ・ 切花・鉢花の10月の見通し(県内市場)	20

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課 (052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ (03)-5492-5400

平成29年4月号から、「全国における主要農産物の輸出入実績」、「関連指数」のページはなくなりました。それぞれの情報につきましては、

【輸出入実績】

農林水産省ホームページ内「農林水産物輸出入統計」
<http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/kokusai/index.html>

【消費者物価指数】

全 国：総務省統計局ホームページ内「消費者物価指数月報」
<http://www.stat.go.jp/data/cpi/>
名古屋：愛知県県民生活部「名古屋市消費者物価指数」
<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/toukei/bukka.html>

【農作物価指数】

農林水産省大臣官房統計部「農作物価統計調査」
<http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/noubukka/>

【名古屋市小売価格】

総務省統計局「小売物価統計調査」
http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020101.do?_toGL08020101_

を御覧ください。

早生で良食味のなし新品种「愛知梨3号」を開発

農業総合試験場

愛知県のなし産地では、「幸水」が栽培面積の約半分を占め、次いで「豊水」が栽培されています。しかし、近年、「豊水」の販売価格が他県産「幸水」との競合や消費者嗜好の変化により低迷しています。

こうした状況を踏まえ、農業総合試験場では、「幸水」と労働及び作期分散が可能で、「豊水」や「幸水」より食味の良い新品种「愛知梨3号」を、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構と共同で育成したので紹介します。



「愛知梨3号」

1 生育・栽培特性

本品種は、「幸水」に比べ樹勢がやや強く、なしで重要な花芽の着生が良好であるため栽培が容易です。開花は「幸水」より早く、収穫始めは「幸水」よりやや遅い8月中旬となるため受粉や収穫の作業が分散できます。また、苗木の新梢伸長がおう盛で、樹冠（上部の葉が繁茂した部分）が早く拡大するため早期の収量確保が見込まれます(表1)。

表1 「愛知梨3号」収量及び生育状況（樹体ジョイント仕立て^注、2018年）

	樹齢	幹周 cm	収量		1 mあたり	
			個数	重量 kg	新梢数	総新梢長 cm
愛知梨3号	3	15.6	50	29.6	15.1	1,179
幸水	4	15.7	21	10.8	11.0	850

注) 樹体ジョイント仕立ては、棚下で伸ばした主枝を隣接樹と接ぎ木し連結する仕立て法。

表は1ユニット（構成単位）あたりの値。1ユニットの長さは13.5m（株間1.5m×9樹）、畝間は3.5m。

ジョイント接ぎ木は、両品種ともに2017年4月に行った。

2 果実特性

本品種は、「幸水」に比べ果実がやや大きく、果皮は「幸水」に類似した黄赤褐色ですが、果肉が「幸水」に比べやや黄色味を帯びます。

糖度は「幸水」より高く、甘みを感じやすいショ糖や果糖の含量が高いため、甘みを強く感じることができます。また、「豊水」より酸味が少ないのも特徴です。日持ち性は「幸水」に比べ常温条件下ではやや劣りますが、冷蔵条件下では優れています。

3 「愛知梨3号」の評価

2015年度から現地適応試験を県内なし産地で行った結果、「豊水」に比べ果実特性、栽培特性ともに優れていました。また、市場関係者、直売所の販売者及び消費者による食味評価では、「幸水」「豊水」と比べて高く、特に「甘み」「シャリシャリ感」「みずみずしさ」で高評価を得ました。これらの結果から本品種は「幸水」以降に出荷される良食味のなしとして定着することが期待されます。本県では、来秋から苗木販売を行い、2024年に初着果、2025年頃から本格的な出荷が見込まれています。

「安城梨」のブランド化の取組について

西三河農林水産事務所

安城市では、明治時代からなしの栽培が始まり、全国の露地産地の中でも早い時期から出荷できる地域として、「愛甘水」「甘ひびき」「幸水」「豊水」「あきづき」「新高」の6品種を「安城梨」のブランドで出荷しています。

J Aあいち中央梨生産部会（部会員96名、栽培面積38ha）等は、愛知県農業生産力パワーアッププロジェクト推進事業等を活用して、「安城梨」のブランド力の強化や園地継承の確立などに取り組んでいます。

1 夏休み親子体験イベントの開催

地元小学生に、安城市でのなしの栽培や流通を学んでいただくとともに、安城梨のPRを図るため、親子体験イベントを開催しました。

参加者は、光センサーを備えた選果機などの説明を、熱心に聞き入っていました。

期日：令和元年8月24日（土）

場所：J Aあいち中央総合センター（安城市赤松町）

参加者：広報誌等で募集した小学生の親子15家族52名

主な内容：選果場見学

部会長によるなしの栽培方法説明

野菜ソムリエによるアレンジレシピ紹介や品種食べ比べ



選果場見学の様子

2 優良品種「あきづき」品評会の開催

「あきづき」は、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）が開発し、2001年に登録した品種です。9月上旬から出荷が始まり、果重は500g前後とやや大きめで、果肉は緻密で糖度が高く、果汁も豊富です。

「あきづき」の栽培技術の向上や消費拡大を図るため、初めて品評会を開催しました。春からの乾燥や長雨などにもかかわらず、最高糖度13.8%（平均糖度12.5%）と優れた果実が多数出品されました。

審査は、(株)デンソー高棚製作所、安城七夕親善大使、西三河農林水産事務所農業改良普及課など10名が外観・品質などを審査して、安城市長賞を始め入賞7点を決定しました。

期日：令和元年9月10日（火）

場所：J Aあいち中央総合センター（安城市赤松町）

出品点数：46点

また、翌日には、ファーマーズマーケットでんまあと安城西部（安城市福釜町）で、試食宣伝や即売会を開催しました。



品評会審査の様相

「買う」から「利用する」への視点の変更 ～消費における「所有から利用へ」の流れ～

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

9月11日(水)～13日(金)、東京国際展示場において食品関連の複合展示会が開催され、参加各社のPR・商談とともに、3日間で70以上に上る関連セミナーが開かれました。講習内容は多岐にわたり、急成長する「サブスクリプション型ビジネス」に関するセミナーにも多くの聴講者が集まりました。

近年、他分野において進む「消費における“所有から利用”への流れ」について、農産物での取組・ヒントなどを含めて紹介したいと思います。

1 サブスクリプション方式

サブスクリプション方式（以下、サブスク方式）とは、商品を買うのではなく、利用した期間に応じて料金を払うビジネスモデルです。身近な事例としては、自家用車を購入する従来の「買い取り方式」に対し、自動車を共同で使用し利用期間や走った分だけ料金を支払うカーシェアリングが「サブスク方式」となります（図1）。

サービスを使用する利用者にとっては、これまでの買い取り方式に比べ、初期費用が抑制されることや維持費が不要となること、気軽にサービスを利用できる利便性などのメリットがあります。利用期間中は、サービス内で様々な商品の利用が可能であることから、導入の障壁が低くなり、これまで「選択肢に入らなかった商品を利用する機会」も広がります。

一方、サービスを提供する事業者にとっては、継続的な収入が期待できること、商品を利用してもらいやすいこと、顧客の囲い込みなどのメリットがあります。さらにサービスの利用状況から需要を把握し、消費者ニーズに応じた商品を開発・提供することも可能となります。

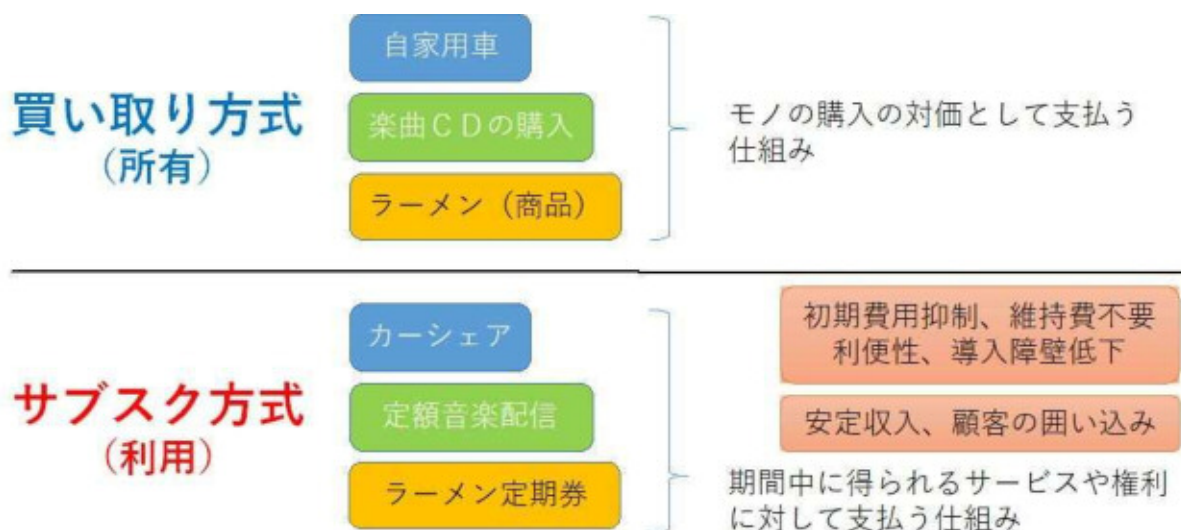


図1 従来の買い取り方式とサブスク方式の違い

2 農産物分野での事例

こうしたサブスク方式に代表される「所有から利用へ」という考え方は、様々な業種で注目・導入され始めています。不透明な経済情勢の中、商品を購入して所有する際の高額な初期費用や維持費、稼働率の低下といったリスクを避け、必要なときに必要なだけ利用する手法が効率的と見られているのか、商品の所有からサービスの利用への移行が一つの流れとなっているようです。

食品や農産物分野では、商品の温度管理や在庫管理、配送コストなどの問題からサブスク方式の導入が難しい面もありますが、野菜詰め合わせの宅配やりんごの頒布会など、事前に農産物を宅配してもらう権利を購入して、農家が選んだ商品を定期的に受け取るサービスもあります（表1）。また、東京都に本社を持つ生花店の（株）日比谷花壇では、プランに応じた料金を支払うことで、好きなときに店舗で花を受け取ることができる「ハナノヒ」という月額定額制のサブスク方式のサービスを本年から始めています。

表1 農産物での事例

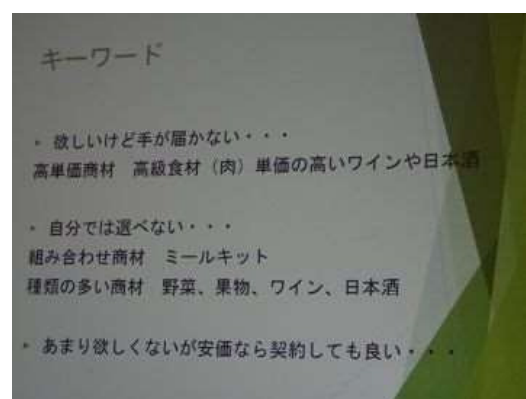
名称 (形態)	利用料	内容	事業者
農産物定期宅配 (定期通販型)	事前決済・引落	毎週、有機野菜などの詰め合わせを宅配	業者
りんご頒布会 (定期通販型)	事前一括支払	半年間、毎月2品種を宅配	生産者 or 業者
ハナノヒ	月払い	月6回まで一定金額内の好きな花を店舗で受け取り	生花店

※農産物定期宅配、りんご頒布会は1例を抜粋
※ハナノヒには店が選んだ花を受け取ることができるプランもある

3 サブスクからのヒント

サブスク方式のメリットの1つに、「今まで選択肢になかった(できなかった)商品を利用する機会の創出」があります。利用者側からすれば、趣味や興味対象が拡大するとともに、提供者が勧める専門的な商品提案を受けることが可能となります。また、提供者側からすれば、商品を提案する機会が生まれ、新たな需要を作ることができます。

「所有」と「利用」の大きな違いは、「利用」の方が金銭面や心理面で導入障壁が下がり、お試しや提案を受け入れやすくなることです。「所有から利用への流れ」により、今まで気づけなかった、または対象から外していた新たな需要を掘り起こすチャンスが生まれています。



セミナー資料より

これら「所有から利用へ」の流れを、単に「サブスク方式」の導入の可否だけでなく、どのような利用者や需要が新たに発生するかという点に目を向けることは、今後の農産物の生産方針の決定や販売展開に役立つと思われます。

セントレアでの県産農産物に係る外国人の嗜好性調査について

食育消費流通課

愛知県は、県産農産物の輸出促進に向け、J Aグループ愛知及び関係市町村等と協力し、中部国際空港の国際線制限エリア内で生鮮食品や加工品を販売する店舗「Centrair OISHII Premium Selection ショップ」（以下、「ショップ」という）内に愛知県の農産物コーナーを設置し、旬の県産農産物を販売するとともに、外国人の嗜好性調査を実施しました。

1 愛知県の農産物コーナーの設置

2019年6月にショップ内に設置した愛知県の農産物コーナーでは、季節に応じた県産の農産物を一口サイズにカットし、カップ詰めにした状態で販売しました（表1）。

ショップの主要な購買客は、出国審査を終えて飛行機搭乗まで滞在する外国人であり、家族連れや友人グループの外国人旅行客が県産農産物を購入していく様子が見られました。

2 嗜好性調査の実施

ショップで販売する愛知県の農産物について、外国人の嗜好性調査として、ショップ及び国際線の搭乗口付近において、試食宣伝を兼ねた調査を行いました。調査においては国産農産物の主要な輸出先である香港の旅行客をメインターゲットとし、試食を行うとともに、味や食感、自国に帰った際の購入希望等についてアンケート形式で調査しました。

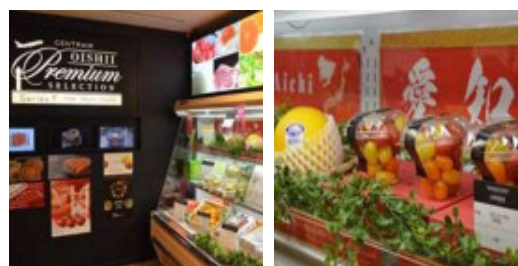
調査の結果、どの品目においても食味・食感・外観等について概ね好意的な評価が得られ、「甘くて美味しい」といった意見が多く寄せられました。また、協力して調査を行った市町村やJ A担当者からは「外国人の反応を知ることができ、よい機会となった」等の声が聞かれました。

ショップにおいては、2020年3月末まで、引き続き季節に応じた県産農産物を販売していく予定です。

この取組を通じて、県産農産物の一層の輸出拡大が図られるとともに、外国人における県産農産物の認知度が向上するよう期待しています。

表1 ショップにおける販売品目

販売時期	品目	産地名
6月	ミニトマト	JA豊橋
	露地メロン	JA愛知みなみ
7月	いちじく	JAあいち知多
	桃	JAあいち豊田
8月	ぶどう	大府市



ショップでの販売の様子



嗜好性調査の様子

紫外線照射によるバラ「うどんこ病」抑制技術の検討

～紫外線はバラ「うどんこ病」の発生抑制に効果あり～

愛知県花き温室園芸組合連合会

紫外線（UV）は、人の目に見える可視光線より波長の短いもので3種類あり、波長の長い方から順にUV-A、UV-B、UV-Cと区別されています。このうち、「UV-B」は波長が280nm～315nmで、植物の病害虫を抑制する効果があることが知られています。今回、国の補助事業である平成30年度国産花きイノベーション推進事業を活用し、田原市の本会生産者ほ場に試験区を設け、UV-B照射によるバラのうどんこ病抑制技術を検討しました。

1 試験内容

品種は「サムライ」を用い、照射期間は平成30年9月～平成31年1月、照射時間は概ね午前2時～午前5時の3時間としました。UV-B蛍光灯は、ベンチから高さ270cmの位置に4m間隔で600㎡当たり14個を設置し、紫外線放射照度とうどんこ病発病率を調査しました。



試験で使用したUV-B蛍光灯

2 試験結果

日没1時間後の各区の紫外線放射照度は、試験区は4～7 $\mu\text{W}/\text{cm}^2$ 、対照区は0～1 $\mu\text{W}/\text{cm}^2$ でした。また、うどんこ病の発病率は、概ね試験区の方が対照区よりも低くなりました。花茎におけるうどんこ病の発生位置は、試験区では下位葉のみでしたが、対照区は上位葉まで発生しました。試験農家は、試験区での発生状況について、「下葉を除去すれば出荷に問題はない」と評価していました。



夜間の点灯の様子

3 まとめ

UV-B蛍光灯で、バラのうどんこ病を抑制する試験に取り組んだ結果、紫外線の放射照度が4～7 $\mu\text{W}/\text{cm}^2$ の範囲で、うどんこ病抑制効果があることがわかりました。

10a当たりのイニシャルコストは、概算で約60万円で（UV-B蛍光灯、ソケット等部材費等）、ランニングコストは1日3時間照射の場合、1か月当たり約2,200円でした。

抑制効果が期待できる一方で、照射による障害に留意する必要があります。今回の試験では発生しませんでした。兵庫県立農林水産技術総合センターでの試験事例では、品種や照射方法によって、葉に縮れなどの軽い障害が発生しています。

今後は、費用対効果を最大化するための照射方法（時間帯、照射時間等）を検討するとともに、抑制効果や障害の発生について品種間差を確認する必要があります。

なお、UV-Bは人体に有害であることから、照射は夜間とし、照射中は直視しないようにすることが必要です。

愛 知 産 青 果 物 の 動 向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

前年並 : ±1%台以下
 わずか : ±2%台
 や や : ±3～5%台
 かなり : ±6～15%台
 大 幅 : ±16%以上

○ 名古屋中央卸売市場（品目：次郎柿）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		愛知産	
30年実績	713	438 (62%)	209	235	三重 (38%) — —
元年見通し	650	400	210	—	
入荷量及び卸売価格の概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
愛知及び三重からはほぼ全量を入荷する。生育状況は、前進傾向だった前年に比べるとやや遅いが、概ね前年並となっている。裏年に加えて前年の台風被害で樹が弱った影響か、着果は例年より少なく、品質面では下物が多くなる見込み。着果数が少ないため、果実は大玉傾向となる。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年並となる見込み。			出荷物に対しては、市場から特段の要望はなく、引き続き選果の徹底をお願いしたい。市場入荷量は年々減少傾向となっており、需要も縮小傾向であるが、販売維持のため、安定した出荷量の確保をお願いしたい。		

○ 東京都中央卸売市場（品目：次郎柿）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		愛知産	
30年実績	1,977	1,591 (80%)	237	230	静岡 (19%) — —
元年見通し	1,900	—	240	—	
入荷量及び卸売価格の概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
愛知を中心に静岡からも入荷する。愛知の生育は7月の長梅雨や9月の低夜温等の影響により若干遅れている。その一方で、玉肥大は良好であり、10月下旬から入荷のピークを迎える見込み。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並となる見込み。			りんごやみかん、なしといった競合する果実が豊富な時期にあたる。果実全体の販売環境が厳しい中で、いかに安定した品質の「かき」を消費者に提供できるかが重要となる。このため、選果選別を徹底するとともに、予約販売に向けて産地の出荷動向などの的確な情報が求められる。		

名古屋・東京市場における青果物の10月の見通し

名古屋市中央卸売市場

※グラフは白抜き箇所が見通しとなります。

9月13日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	26年	39,598	179	194	176	163	北海道 42%
	27年	38,706	216	234	216	192	長野 21%
	28年	33,600	284	276	291	274	茨城 8%
	29年	37,656	185	183	171	198	群馬 8%
	30年	37,787	234	246	227	223	青森 5%
	5ヵ年平均	37,469	220	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	36,600	206	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>北海道、長野を中心に入荷する。北海道の根菜類は生育順調。夏秋作は前進傾向で終了が早まり、入荷は例年より少なくなるか。関東が主要産地となる品目では9月の台風による影響が懸念される。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>							
だいこん	26年	2,542	77	90	84	64	北海道 44%
	27年	2,469	95	106	106	80	青森 42%
	28年	1,784	168	156	172	181	新潟 5%
	29年	2,212	85	80	72	112	千葉 3%
	30年	2,662	105	117	93	113	岐阜 3%
	5ヵ年平均	2,334	103	107	102	104	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	2,300	100	100	100	100	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>青森、北海道を中心に入荷する。青森と北海道の生育状況は順調で、全体でも概ね平年並の入荷量を見込む。一方、後続産地の千葉は播種時期に雨が多く、さらに台風15号もあり、今後の影響が懸念される。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>							
にんじん	26年	2,634	98	111	106	86	北海道 95%
	27年	2,735	119	126	122	115	青森 4%
	28年	2,027	266	304	292	228	
	29年	2,865	90	98	83	88	
	30年	2,262	203	210	207	194	
	5ヵ年平均	2,505	147	153	155	138	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	2,400	130	130	130	130	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>北海道を中心に、一部は青森からも入荷する。前年は天候不順で入荷量が減少して高値となった。本年の9月現在の入荷物は細物中心だが、10月には回復してくる見通しで、平年に近い入荷を見込む。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>							

注) 「ねぎ」は「こねぎ」を含む。
「なす」は「長なす」と「べいなす」を含む。

東京都中央卸売市場

9月30日現在

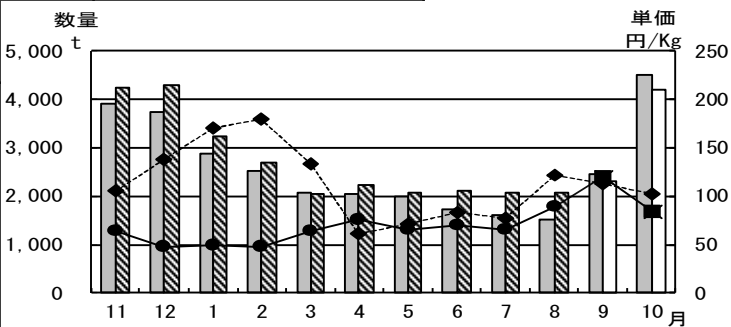
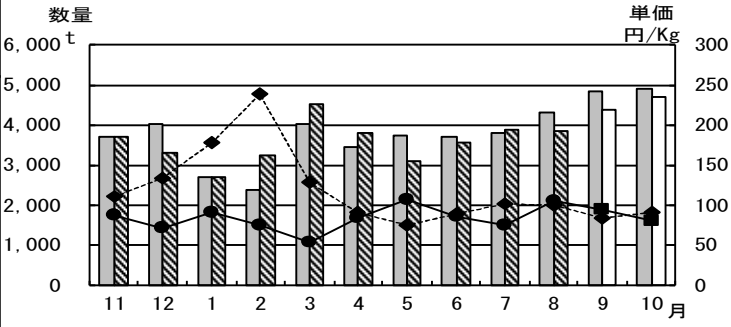
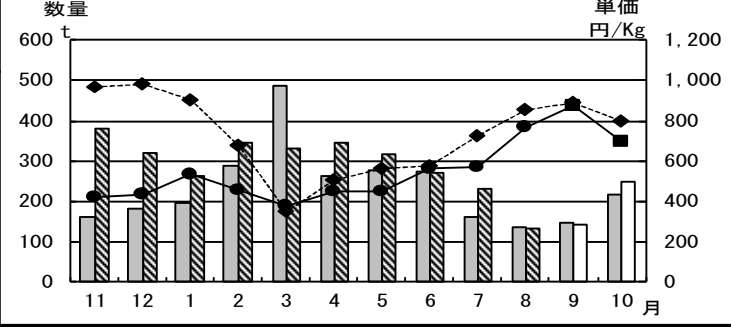
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	26年	146,886	192	206	189	182	北海道 27%
	27年	142,190	237	258	242	214	長野 15%
	28年	129,927	316	309	321	315	茨城 12%
	29年	139,763	201	193	181	229	群馬 12%
	30年	134,292	264	271	258	263	千葉 7%
	5ヵ年平均	138,612	240	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	139,000	260	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
千葉、茨城を直撃した台風15号、長崎、福岡をかすめた17号により農作物や施設への被害大。露地への被害は少ない。一時的には品薄となる品目もあるが、他産地は生育順調で回復も早いと見込まれる。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年並となる見込み。							
だいこん	26年	14,289	72	89	74	58	北海道 39%
	27年	14,255	86	104	89	68	青森 37%
	28年	12,467	149	144	151	150	千葉 14%
	29年	12,451	77	73	61	97	岩手 4%
	30年	12,365	98	107	89	100	茨城 3%
	5ヵ年平均	13,165	95	103	92	93	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	12,300	85	85	85	85	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
北海道、青森からの入荷が中心となる。千葉の台風被害は軽微で入荷に大きな影響はない。北海道が終盤を向かえるなか、主力の青森で一部ほ場に軟腐病発生の報告があるが今後の天候次第か。 入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり下回る見込み。							
にんじん	26年	9,276	90	101	93	80	北海道 90%
	27年	9,125	116	120	117	111	青森 7%
	28年	7,838	261	260	263	260	中国 3%
	29年	9,057	88	89	82	92	
	30年	7,809	213	221	206	212	
	5ヵ年平均	8,621	148	153	147	146	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	9,000	110	110	110	110	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
北海道からの入荷が中心となる。北海道は終盤となるも、遅れていた産地からの入荷が重なるほか、青森からの入荷もあり潤沢な出回りとなる。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。							

名古屋市中央卸売市場

9月13日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)		
			上旬	中旬	下旬			
ほうき	26年	4,107	55	80	56	46	長野 92%	
	27年	3,787	85	92	113	69	茨城 4%	
	28年	2,899	152	122	148	176	北海道 3%	
	29年	4,318	55	54	42	75		
	30年	4,511	103	143	84	92		
	5ヵ年平均	3,925	86	96	82	86	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	元年見通し	4,200	85	85	85			
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野を中心に、茨城の早生系も始まる。長野は増量した前年を下回るものの、概ね平年並の入荷量を見込むが、品質はあまり良くない。茨城は台風15号により冠水したほ場もあり、今後の影響が懸念される。入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に下回るが平年並の見込み。</p>					
	キヤベツ	26年	4,987	82	112	89	59	群馬 50%
		27年	4,364	135	152	138	120	長野 21%
28年		4,101	174	121	183	219	茨城 16%	
29年		4,818	65	67	54	75	北海道 9%	
30年		4,924	92	94	81	107	愛知 3%	
5ヵ年平均		4,639	107	107	107	110	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
元年見通し		4,700	90	90	90			
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬、長野、茨城を中心に入荷する。群馬、長野は順調で中旬まで安定した入荷を見込む。茨城は下旬からの入荷となるが、台風15号の影響次第。愛知は冬系の割合が増え、年内獲りが若干増加する見込み。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をわずかに下回る見込み。</p>						
ほうれんそう		26年	288	558	563	562	556	岐阜 61%
		27年	291	587	738	650	455	愛知 20%
	28年	186	894	1,093	1,002	764	茨城 12%	
	29年	274	618	653	545	725	長野 3%	
	30年	218	798	872	818	736	静岡 1%	
	5ヵ年平均	251	669	721	681	625	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	元年見通し	250	700	700	700	700		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>岐阜を中心に、愛知、茨城などから入荷する。岐阜は概ね平年並の入荷を見込む。愛知も作況に問題なく、平年作の予想。茨城は例年よりやや播種が多かったが、台風15号の影響で減少するか。入荷量は前年をかなり上回り、価格は高値だった前年をかなり下回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

9月30日現在

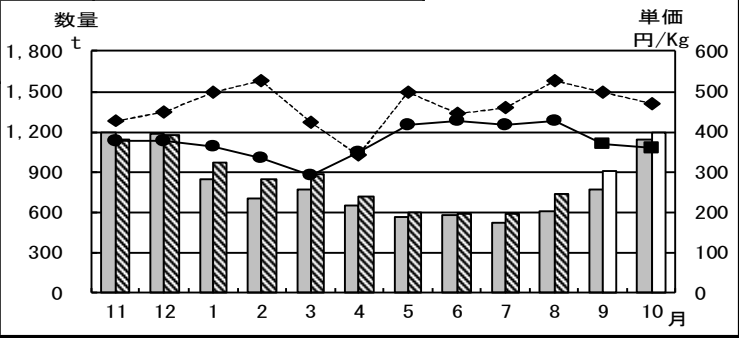
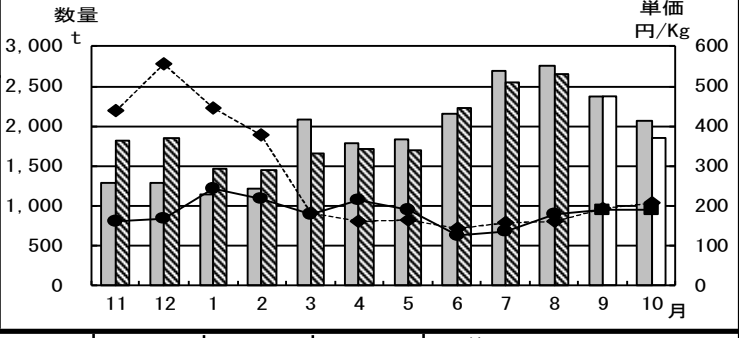
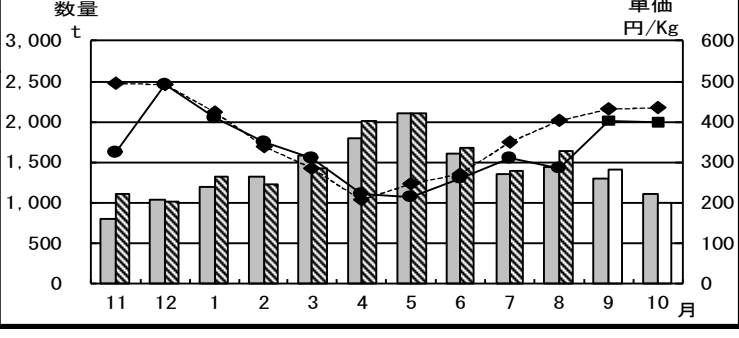
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	26年	14,875	54	79	52	38	長野 74%
	27年	14,551	85	88	108	64	茨城 12%
	28年	14,716	143	119	144	158	北海道 7%
	29年	17,700	55	54	46	64	群馬 6%
	30年	17,065	102	138	89	84	岩手 1%
	5ヵ年平均	15,781	87	95	86	81	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	16,000	80	80	80		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野を中心に、茨城などから入荷する。長野の一部で夏場の日照不足や長雨の影響を引きずるも、今後は回復が見込まれ、全体的にも増加傾向となる見通し。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					
数量 単価 円/Kg							
キヤベツ	26年	17,085	82	114	86	54	群馬 60%
	27年	16,805	137	162	141	108	千葉 11%
	28年	16,686	166	114	174	205	茨城 10%
	29年	18,246	56	59	48	63	岩手 9%
	30年	18,240	87	87	77	98	長野 6%
	5ヵ年平均	17,412	104	106	104	104	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	18,000	85	85	85		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬を中心に、千葉、茨城からの入荷となる。群馬はこれまでの遅れ分が出ており潤沢な入荷が続く。下旬からは台風被害が軽微だった千葉や茨城も順調に増量し、荷動きが鈍る懸念もある。 入荷量は前年並となり、価格は前年をわずかに下回る見込み。</p>					
数量 単価 円/Kg							
ほうれんそう	26年	1,668	478	473	481	480	群馬 43%
	27年	1,678	490	648	519	381	茨城 18%
	28年	994	851	1,172	896	672	栃木 15%
	29年	1,468	507	484	413	667	岩手 6%
	30年	1,232	662	762	676	586	千葉 4%
	5ヵ年平均	1,408	572	666	569	541	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	1,300	580	600	580		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬を中心に、茨城、栃木などから入荷する。内陸産地はやや干ばつ気味だが、概ね生育は順調。今後は露地物が始まり増量する。台風被害の出た茨城だけは10月中の入荷が平年を下回ると見込まれる。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
数量 単価 円/Kg							

名古屋市中央卸売市場

9月13日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	26年	1,372	287	294	286	286	北海道 46%
	27年	1,315	352	408	372	306	長野 22%
	28年	1,135	450	472	436	458	秋田 7%
	29年	1,157	374	362	342	423	富山 6%
	30年	1,147	471	515	480	435	中国 4%
	5ヵ年平均	1,225	382	400	381	375	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	1,200	360	360	360		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、長野を中心に各産地から入荷する。入荷のピークを迎える北海道は順調で概ね前年並の入荷を見込む。長野や富山、東北産地も順調な見通し。愛知のこねぎや越津ねぎも作況に問題はない。 入荷量は前年をやや上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>					
し	26年	2,409	114	125	110	122	茨城 49%
	27年	1,791	252	350	252	184	長野 46%
	28年	1,480	421	593	431	318	兵庫 2%
	29年	1,981	145	105	105	254	群馬 1%
	30年	2,073	207	219	198	203	愛知 1%
	5ヵ年平均	1,947	212	230	203	210	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	1,850	190	190	190		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野、茨城を中心に入荷する。終盤の長野は準高冷地からの入荷となるが、例年より切り上がり早く、入荷量は平年より少なめの見込み。茨城は下旬から本格化するが、台風15号の影響が懸念される。 入荷量と価格はともに前年をかなり下回る見込み。</p>					
きゅうり	26年	983	296	242	294	370	群馬 41%
	27年	1,219	293	302	310	273	長野 14%
	28年	880	545	441	703	494	山梨 12%
	29年	929	377	250	258	894	北海道 12%
	30年	1,114	435	417	422	470	茨城 7%
	5ヵ年平均	1,025	383	325	388	452	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	1,000	400	400	400		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬を中心に長野、山梨、北海道などから入荷する。長野の夏秋作は徐々に数量が減少し、前年並の入荷見込み。群馬などの抑制作は順調で、内陸部のため台風15号の影響も少なく、平年並の入荷となるか。 入荷量と価格はともに前年をかなり下回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

9月30日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬	(愛知産比率)	
ねぎ	26年	6,244	244	265	248	223	青森 21%
	27年	6,248	324	385	344	256	秋田 19%
	28年	5,873	428	485	424	394	北海道 16%
	29年	5,488	385	351	356	439	山形 8%
	30年	5,703	467	549	472	408	茨城 6%
	5ヵ年平均	5,911	367	405	366	340	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	5,800	330	360	330	300	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、青森、秋田からの入荷が中心となる。主力の東北各産地は稲刈りの時期に入り、生育順調も上旬の入荷は減り込む。中旬以降は潤沢な入荷が見込まれており、相場は苦しい展開となるか。 入荷量は前年並となり、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					
しそ	26年	10,287	108	115	99	111	茨城 54%
	27年	7,865	256	334	251	192	長野 31%
	28年	6,556	398	512	409	301	栃木 5%
	29年	8,710	122	90	88	212	群馬 4%
	30年	7,879	205	218	196	202	長崎 2%
	5ヵ年平均	8,259	204	234	193	195	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	8,200	180	200	170	170	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、長野が入荷の中心となる。高冷産地の長野と群馬が終盤を向かえるも、後続の茨城が増量時期となり、台風被害も軽微だったため潤沢な入荷を見込む。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
きゅうり	26年	5,956	272	206	287	336	埼玉 27%
	27年	6,601	264	269	276	250	群馬 26%
	28年	5,312	497	407	612	457	福島 14%
	29年	5,432	333	230	242	634	茨城 11%
	30年	5,788	403	376	400	437	千葉 4%
	5ヵ年平均	5,818	349	295	358	414	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	5,800	350	320	330	400	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>埼玉、群馬、福島からの入荷となる。主力の関東産地は概ね生育順調で入荷は安定している。下旬には東北各産地が切り上がりを迎え、相場は上がると見込まれる。 入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

9月13日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	26年	691	246	192	237	334	熊本 33%
	27年	645	359	356	395	344	愛知 28%
	28年	678	370	379	342	393	山梨 14%
	29年	636	283	293	238	360	群馬 7%
	30年	479	466	435	497	474	茨城 6%
	5ヵ年平均	626	337	314	329	377	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	600	355	355	355		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知、熊本、山梨などから入荷する。愛知の前年は台風被害等で大幅に入荷が減少したが、本年の秋冬作の作況は順調。終盤となる夏秋作の入荷は今後の台風と単価次第だが、概ね平年並の数量を見込む。 入荷量は前年を大幅に上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>					
ト マ	26年	1,283	374	424	348	351	岐阜 35%
	27年	1,117	463	472	519	423	愛知 20%
	28年	1,032	549	490	523	649	北海道 14%
	29年	1,185	401	418	405	384	熊本 12%
	30年	1,002	482	505	434	513	千葉 7%
	5ヵ年平均	1,124	449	460	438	449	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	1,100	450	450	450		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>岐阜、愛知、北海道などから入荷する。夏秋作は前進出荷したこともあり、入荷量は少ない見込み。抑制作も8月の猛暑の影響で花芽が弱く、大きな入荷ピークはないとみられる。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
ニ ミ	26年	411	805	987	793	661	北海道 46%
	27年	404	913	985	910	879	愛知 22%
	28年	362	1,051	1,031	1,007	1,132	熊本 14%
	29年	470	816	832	809	811	茨城 8%
	30年	458	909	934	933	866	長野 6%
	5ヵ年平均	421	893	944	893	857	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	420	850	900	850	800	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道を中心に愛知、熊本などから入荷する。北海道の夏秋作は前進出荷のため、10月の残量は少ない見込み。愛知は猛暑で花飛びした部分もあるが、概ね順調で平年並の入荷を見込む。 入荷量と価格はともに前年をかなり下回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

9月30日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	26年	3,603	260	221	247	316	高知 35%
	27年	3,321	359	361	394	330	栃木 22%
	28年	3,405	399	388	391	418	群馬 21%
	29年	3,408	300	262	249	429	茨城 10%
	30年	2,804	436	391	465	450	福岡 3%
	5ヵ年平均	3,308	347	321	344	386	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	3,100	400	390	390	420	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>高知、栃木、群馬が入荷の中心となる。高知は遅れ気味の生育が回復傾向にあり、10月が出荷ピークとなる。関東各産地では数量が振るわないものの、全体では高知の増量でカバーされるか。入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
<p>高知、栃木、群馬が入荷の中心となる。高知は遅れ気味の生育が回復傾向にあり、10月が出荷ピークとなる。関東各産地では数量が振るわないものの、全体では高知の増量でカバーされるか。入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>							
ト マ ト	26年	7,109	338	364	315	331	千葉 19%
	27年	6,242	452	495	482	396	福島 13%
	28年	5,771	545	463	531	659	北海道 11%
	29年	6,169	398	400	409	385	茨城 11%
	30年	5,819	485	470	454	542	青森 10%
	5ヵ年平均	6,222	439	436	433	455	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	5,900	450	450	450	450	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>千葉、茨城、東北産地などを中心に入荷する。東北産地は終盤を迎える。今後主力の千葉、茨城は台風被害により入荷減が予想され、上旬は高値で動くが、中旬以降は秋冬産地の荷が出揃い相場は落ち着く。入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
<p>千葉、茨城、東北産地などを中心に入荷する。東北産地は終盤を迎える。今後主力の千葉、茨城は台風被害により入荷減が予想され、上旬は高値で動くが、中旬以降は秋冬産地の荷が出揃い相場は落ち着く。入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>							
ミ ニ ト マ ト	26年	1,884	724	930	676	597	茨城 21%
	27年	1,784	873	931	846	840	北海道 15%
	28年	1,531	989	942	951	1,081	千葉 12%
	29年	1,796	765	743	783	768	熊本 11%
	30年	1,810	855	857	876	831	青森 10%
	5ヵ年平均	1,761	836	879	821	813	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	1,800	830	830	830	830	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、北海道、千葉などからの入荷が中心となる。北海道は終盤に入り、茨城、千葉が主力となる。トマト同様に台風被害が懸念されるも、同じくシーズンが始まる西南暖地などからの入荷次第か。入荷量は前年並となり、価格は前年をわずかに下回る見込み。</p>					
<p>茨城、北海道、千葉などからの入荷が中心となる。北海道は終盤に入り、茨城、千葉が主力となる。トマト同様に台風被害が懸念されるも、同じくシーズンが始まる西南暖地などからの入荷次第か。入荷量は前年並となり、価格は前年をわずかに下回る見込み。</p>							

名古屋市中央卸売市場

9月13日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	26年	409	306	335	346	338	茨城 31%
	27年	498	374	393	385	380	北海道 26%
	28年	325	627	515	664	697	岩手 12%
	29年	428	335	335	323	457	高知 10%
	30年	376	577	531	547	660	宮崎 9%
	5ヵ年平均	407	430	413	449	484	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	350	520	550	500	500	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、北海道、岩手を中心に入荷する。北海道、岩手の夏秋作の残量は概ね前年並か。茨城は台風15号で入荷減が予想され、9月の品薄傾向が継続し、価格は高値推移が予想される。</p> <p>入荷量と価格は前年をかなり下回るが、平年より品薄高値傾向となる見込み。</p>					
ばれいしょ	26年	2,984	85	92	89	82	北海道 100%
	27年	2,987	104	111	109	98	
	28年	3,218	146	155	152	141	
	29年	2,545	93	96	91	91	
	30年	2,661	112	121	107	107	
	5ヵ年平均	2,879	109	116	114	105	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	2,800	95	95	95	95	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道からほぼ全量を入荷する。北海道の作付面積は年々減少傾向にあるが、本年は天候にも恵まれ豊作基調。このため天候不順の影響を受けて減少した前年を上回る入荷が予想される。</p> <p>入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
たまねぎ	26年	6,499	75	79	79	76	北海道 96%
	27年	6,501	73	80	77	73	愛媛 3%
	28年	6,449	76	83	76	72	兵庫 1%
	29年	6,339	72	73	72	72	
	30年	6,915	90	97	91	86	
	5ヵ年平均	6,541	77	83	79	76	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	6,700	80	80	80	80	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道からほぼ全量を入荷する。階級は小玉が少なく、L大中心の販売を見込む。北海道の各産地ともに順調で概ね前年並の入荷となる見通し。</p> <p>入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

9月30日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	26年	1,977	269	257	262	288	茨城 62%
	27年	2,033	333	361	315	319	岩手 22%
	28年	1,799	545	438	584	591	福島 7%
	29年	1,929	298	265	254	401	宮崎 3%
	30年	2,019	498	458	456	592	高知 3%
	5ヵ年平均	1,951	386	355	371	436	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	2,000	430	450	420	420	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、岩手からの入荷が中心となる。前半は台風被害を受けた茨城と終盤の東北産地からの入荷となるため相場を上げるも、後半は西南暖地の高知、宮崎などが始まり価格は落ち着くと見込まれる。 入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
ばれいしょ	26年	8,133	92	94	91	91	北海道 99%
	27年	7,564	109	113	109	104	
	28年	7,584	155	155	159	152	
	29年	7,443	97	97	98	95	
	30年	6,822	117	121	118	111	
	5ヵ年平均	7,509	114	116	115	110	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	7,500	90	90	90	90	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道からの入荷がほとんどを占める。北海道の前年作は6月の長雨により極端な不作だったが、本年は一転して豊作傾向。一部では少雨により小玉傾向となっているものの、大きな影響はない。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					
たまねぎ	26年	11,839	82	85	81	80	北海道 94%
	27年	10,916	78	81	77	76	中国 5%
	28年	10,726	85	92	85	80	
	29年	10,691	77	76	76	77	
	30年	10,302	101	102	101	101	
	5ヵ年平均	10,895	84	87	84	83	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	11,000	80	80	80	80	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道からの入荷がほとんどを占める。生育及び肥大ともに良好で豊作基調。相場は不作により高騰した前年を大きく下回るが、平年をわずかに下回る程度となるか。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

9月18日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	26年	12,729	257	287	263	234	和歌山 17%
	27年	11,818	279	306	280	264	長野 17%
	28年	10,515	330	348	331	320	三重 12%
	29年	10,895	302	338	306	280	フィリピン 11%
	30年	10,574	326	369	324	304	熊本 10%
	5ヵ年平均	11,306	297	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	10,500	310	—	—	—	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>みかん、りんご、かきなどが主な品目となる。長梅雨や猛暑で出だしが遅れた品目もあるが、10月は全体的に前年並の入荷量となる品目が多いか。りんごも青森の輸出状況次第だが、前年並の数量見込み。 入荷量は前年並で、価格は前年をやや下回る見込み。</p>						
み	26年	3,710	178	224	187	148	三重 34%
	27年	3,553	189	200	183	189	熊本 28%
	28年	3,360	261	257	256	264	和歌山 16%
	29年	3,124	241	262	240	235	静岡 12%
	30年	3,246	250	260	252	248	愛媛 3%
	5ヵ年平均	3,399	222	239	222	215	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	3,200	250	260	250	240	
み	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>三重、熊本、和歌山などから入荷する。極早生が中心となる10月の入荷量は前年並を見込むが、裏年のため冬場の青島みかん等は少ないとみられる。玉肥大や果実品質への猛暑の影響は少なく、食味も平年並と思われる。 入荷量と価格はともに前年並の見込み。</p>						
か	26年	2,171	238	271	240	225	和歌山 64%
	27年	2,322	219	253	222	208	愛知 14%
	28年	1,900	263	286	254	268	岐阜 11%
	29年	2,002	228	254	221	225	三重 7%
	30年	2,068	263	303	258	254	奈良 4%
	5ヵ年平均	2,092	241	273	238	235	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	2,100	230	260	240	220	
か	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>和歌山を中心に岐阜、愛知などから入荷する。和歌山の前年は台風により作後半の入荷が減少したが、本年は平年並の数量を見込む。愛知の次郎柿は少なく、筆柿は前年並。日焼け果が多く、下物が多くなるか。 入荷量は前年並で、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>			<p>注：本年の6月は入荷なしにつき単価を0円/kgで表記</p>			

東京都中央卸売市場

9月30日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	26年	48,993	254	267	251	245	和歌山 14%
	27年	47,454	282	302	281	265	青森 9%
	28年	42,602	328	352	322	315	熊本 9%
	29年	44,293	298	326	299	274	長野 8%
	30年	41,391	330	360	327	305	長崎 7%
	5ヵ年平均	44,947	297	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	42,200	320	—	—	—	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	みかん、かき、なし、りんごを中心に入荷する。りんごは各産地とも順調で入荷量も十分にある見込み。品目・産地によっては、これまでの天候不順や台風の影響で、下位等級の発生が増えるの見込まれる。入荷量は前年並となり、価格は前年をやや下回る見込み。						
み	26年	15,121	159	175	159	150	熊本 26%
	27年	15,265	199	211	196	189	長崎 23%
	28年	13,228	242	254	239	238	愛媛 19%
	29年	13,594	204	231	206	183	和歌山 13%
	30年	12,976	237	251	236	227	佐賀 11%
	5ヵ年平均	14,037	206	223	205	196	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	13,000	230	240	230	220	
みか	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	熊本、長崎、和歌山などから極早生中心に入荷する。九州産地は長梅雨などの天候不順の影響で糖度が心配されたが、9月は好天に恵まれたため回復するか。前年より肥大は良い見込み。台風の影響が懸念されるも入荷量は前年並、価格は前年をわずかに下回る見込み。						
か	26年	9,230	229	233	227	229	和歌山 42%
	27年	10,170	212	235	215	196	奈良 24%
	28年	8,707	265	274	251	272	新潟 10%
	29年	8,952	226	241	213	227	愛知 9%
	30年	9,192	258	278	243	258	福岡 3%
	5ヵ年平均	9,250	237	252	229	235	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	9,200	250	270	240	240	
かき	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	主に和歌山や奈良から刀根早生、平核無が入荷する。順調な入荷が予想されるも、産地によっては入荷遅れや日焼け果がみられる。愛知の次郎柿も生育及び成熟が遅れ気味となっている。入荷量は前年並となり、価格は前年をやや下回る見込み。						

切花・鉢花の10月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 9月30日現在）

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	26年	1,861	36	
		27年	1,799	45	
		28年	1,628	83	
		29年	1,415	60	
		30年	1,468	67	
	5ヶ年平均		1,634	57	
	元年見通し		1,450	60	
概要	愛知、三重、長野などから入荷する。長野などの高冷地産は終盤となり、周年産地もあり多くない。業務中心で堅調な動きとなる見込み。				
小 ぎ	実績	26年	818	29	
		27年	720	34	
		28年	621	53	
		29年	669	31	
		30年	765	39	
	5ヶ年平均		719	37	
	元年見通し		700	38	
概要	愛知、奈良、長野、埼玉などから入荷する。高冷地産は終盤に向かい、暖地産も数量はさほど多くない。				
カー ネ ー シ ョ ン	実績	26年	1,185	36	
		27年	1,262	43	
		28年	1,305	46	
		29年	961	43	
		30年	1,351	41	
	5ヶ年平均		1,213	42	
	元年見通し		1,200	42	
概要	長野、北海道、愛知を中心に入荷する。今年は9月中まで安定出荷となったが、スタンダード中心に品薄状況となり、単価は安定して推移すると思われる。				
か す み	実績	26年	126	92	
		27年	89	151	
		28年	75	165	
		29年	100	120	
		30年	89	165	
	5ヶ年平均		96	134	
	元年見通し		95	150	
概要	長野、福島を中心に入荷する。中旬以降は暖地産も出荷されるが、総体では上旬から数量が減少し、価格は上昇してくる。業務中心の動きとなる。				

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆ り	実績	26年	383	147	
		27年	338	162	
		28年	310	182	
		29年	295	167	
		30年	324	161	
	5ヶ年平均		330	163	
	元年見通し		310	163	
概要	<p>オリエンタルは新潟、高知、宮崎、埼玉、北海道などから入荷する。気候次第で入荷は変動し、やや少ない見込み。LA、鉄砲も中旬までは少ない。業務中心の販売となるが、一般需要も見込め、活発な動きとなる。</p>				
洋 ら ん	実績	26年	556	72	
		27年	543	69	
		28年	588	75	
		29年	471	64	
		30年	585	69	
	5ヶ年平均		549	70	
	元年見通し		550	70	
概要	<p>愛知、静岡、鹿児島等の国内産や輸入物が入荷する。輸入物のデンファレ、オンシジウムともに入荷は増える予想で、国内産も今後の天候に問題がなければ、順調な入荷が見込まれる。</p>				
ば ら	実績	26年	974	73	
		27年	860	80	
		28年	833	86	
		29年	884	73	
		30年	834	75	
	5ヶ年平均		877	77	
	元年見通し		850	75	
概要	<p>愛知、岐阜、三重、和歌山中心に入荷する。高冷地産は気温低下とともに減る見込み。花も夏の顔から変わり、状態としては良くなって来る。体育の日がらみの3連休や週末のブライダル需要等が期待される。</p>				
枝 も の	実績	26年	1,626	45	
		27年	1,531	48	
		28年	1,567	50	
		29年	1,488	48	
		30年	1,442	56	
	5ヶ年平均		1,531	49	
	元年見通し		1,450	50	
概要	<p>長野、岐阜を中心に入荷する。山物は高齢化で入荷量も少なく、堅調な相場展開。全体的に見れば前年のような広域の台風被害もなく、安定した単価で推移する見込み。</p>				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ドラセナ	実績	26年	18,287	778	
		27年	16,989	975	
		28年	20,346	769	
		29年	16,932	883	
		30年	16,157	710	
	5ヶ年平均		17,742	821	
	元年見通し		16,000	719	
概要	<p>入荷量は前年並か。原木価格の高騰に伴い、輸入の減少や作付品目の変更などの影響がある。前年同様に中鉢の7～8号と4～5号サイズが中心で、大鉢は少ない見込み。前年10月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（60.5%）、2位鹿児島（16.8%）、3位沖縄（6.0%）となっている。</p>				
シャコバサポテン	実績	26年	42,802	370	
		27年	47,667	372	
		28年	33,336	420	
		29年	42,055	396	
		30年	39,614	400	
	5ヶ年平均		41,095	390	
	元年見通し		40,000	398	
概要	<p>入荷量は前年並か。先月に引き続き、全体的にロスは少ない見込み。生産者によっては注文が集中することが予想され、競売出荷が減少するとみられる。前年10月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（72.8%）、2位埼玉（15.3%）、3位栃木（6.1%）となっている。</p>				
シクラメン	実績	26年	603,249	181	
		27年	641,497	184	
		28年	672,626	184	
		29年	616,535	174	
		30年	578,858	188	
	5ヶ年平均		622,553	182	
	元年見通し		570,000	189	
概要	<p>入荷量は前年並か。ガーデンシクラメンは初旬より潤沢な出荷見込み。4号以上の鉢は8月の高温や6・7月の曇天の影響から苦戦を強いられており、例年に比べて良品での出荷が減る見込み。温度次第ではあるが、ガーデンシクラメンや4号以上の良品は引き合いが徐々に出てくる予想。高額商品などは10月の増税による買い控えが気になる。前年10月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位長野（33.5%）、2位愛知（28.3%）、3位北海道（10.2%）となっている。</p>				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
シンビジュウム	実績	26年	9,021	2,040	
		27年	9,082	1,937	
		28年	11,112	1,549	
		29年	2,902	1,826	
		30年	2,844	1,757	
	5ヶ年平均		6,992	1,816	
	元年見通し		2,900	1,724	
概要	<p>入荷量は前年並か。山上げ場でも比較的气温が下がっており、順調に生育している。残暑がなければ10月下旬に少し出荷が増える見込み。シーズン初旬のため、開花具合の査定をよく検討して出荷していただきたい。</p> <p>前年10月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(75.2%)、2位高知(8.1%)、3位長野(7.7%)となっている。</p>				
カランコエ	実績	26年	46,552	183	
		27年	51,897	176	
		28年	43,730	202	
		29年	39,353	180	
		30年	42,314	196	
	5ヶ年平均		44,769	187	
	元年見通し		43,000	193	
概要	<p>入荷量は前年並か。前年に続き、今年も残暑の影響で開花が遅れている。3.5号ポット及び5～6号の八重のMIX植えの引き合いが強く、競売にかかる割合が少ないため、価格面で安定している。岐阜が主となる2.5号、4号サイズの特に一重咲きは年々厳しい状況。</p> <p>前年10月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位埼玉(61.2%)、2位岐阜(22.9%)、3位茨城(13.6%)となっている。</p>				
パンジー	実績	26年	788,490	45	
		27年	712,658	52	
		28年	613,807	52	
		29年	553,234	46	
		30年	563,988	54	
	5ヶ年平均		646,435	50	
	元年見通し		550,000	50	
概要	<p>入荷量は前年よりわずかに減少するか。暑さによる影響を考え、播種などの作業を遅らせている傾向があるため、産地にもよるが10月前半の出荷は減少する見込み。</p> <p>前年10月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(36.9%)、2位奈良(12.6%)、3位福井(11.3%)となっている。</p>				



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.556
令和元年10月発行
農業水産局農政部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434